

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 11 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520246

研究課題名（和文）

ジョージ・エリオット後期小説研究：インターテクスチュアリティの実証的研究

研究課題名（英文）

A Study of George Eliot's Later Novels: A Positive Research of Intertextuality

研究代表者

福永 信哲 (Shintetsu FUKUNAGA)

岡山大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：50116498

研究成果の概要（和文）：

ジョージ・エリオットの後期3小説（『急進主義者フィーリックス・ハウルト』、『ミドルマーチ』、『ダニエル・デロンダ』）にみる小説テキストのインターテクスチュアリティ（過去および同時代作家のテキストとの影響関係）を文体分析の方法により実証的に裏づけた。これにより、19世紀後半の時代精神たるキリスト教（聖書の宗教的世界観と科学（進化論と生理学・心理学）の対話・葛藤が小説テキストに深く浸透していることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

I have attempted to make a textual analysis of George Eliot's later novels (*Felix Holt the radical*, *Middlemarch*, *Daniel Deronda*) from the viewpoint of intertextuality (a positive analysis of the influences owing to the preceding and contemporary writers). It has been made clear through this method that Eliot's novelistic texts are deeply impregnated with the dialogue due to the spirit of the late nineteenth century: that is to say the dialogue between Christian world-view and Darwinian theory of evolution and its consequent physiology and psychology.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	200,000	60,000	260,000
2012年度	200,000	60,000	260,000
総計	900,000	270,000	1,170,000

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：文学、哲学、倫理学

キーワード：キリスト教、科学、聖書批評、間テクスト性、生理学、心理学、文体分析、神話

1. 研究開始当初の背景

本研究開始に先行する 1990 年代から 2000 年代のイギリス文学批評界ではヴィクトリ

ア朝文学のテキスト分析が盛んになっていた。とりわけ、ジョージ・エリオットは宗教、道徳、科学の対話が深化した 19 世紀後半の時代精神を代表する作家として、そのテクス

トがインターテクスチュアリティの観点から論じられるようになった。ところが、日本では文学研究が従来の翻訳中心の旧弊から脱皮できず、文体の実証的分析がなおざりになっていた。この状況を変えることが大切だと考えた。

2. 研究の目的

(1)

ジョージ・エリオットは、イギリス小説をロマンスの伝統から脱皮させ、19世紀の人間の生きざまをあるがままに描くリアリズムから出発した。その後時代精神との対話のプロセスで、小説のプロットに科学者の仮説・検証の方法を用いるようになった。後期小説に至って、仮説・検証型の作法を、プロットはもとより、視点の多様性、修辭的技法、語彙に至るまで深化させた。本研究は、そのプロセスをテキスト分析により実証的に裏づけることを目的とした。

(2)

日本におけるジョージ・エリオット批評の動向として、英語テキストの言語分析を語彙、語源、音韻、先行の文学テキストとの影響関係などの実証的研究は希薄であった。1980年代から2000年代にかけての英米のエリオット批評動向を概観すると、緻密なテキスト分析の成果が相次いで出され、エリオットのイギリス文学における位置づけが着実に高まっていった。一方わが国では、その動向を踏まえたテキスト研究が十分で、成熟したとはいえない状況がある。本研究は、過去20年間の英米批評の主な成果を取り入れたテキストの実証的な研究を目指した。

3. 研究の方法

(1)

テキスト分析による実証的研究を遂行するためには、作家の小説テキストが過去の文人の誰に何を負っているかを、修辭（比喩、視点の移動、語りの構造、語彙、アイロニー、言葉の階級的含みなど）の観点から比較検討することが不可欠である。そのために、インターテクスチュアリティを用いて作家の文体の、過去から現代に至る影響関係を論じることが必須であった。

(2)

とりわけ、宗教的伝統の深いヴィクトリア朝イギリスで科学的世界観が急速に広まった

時代相が人々の暮らしと精神生活に何をもたらしたかを跡づける必要がある。そのためには、植民地市場経済、科学的合理主義と宗教的伝統がせめぎあう動きを、小説言語の裏づけを取りつつ、実証的に明らかにすることが重要と考えた。

4. 研究成果

(1)

上記研究方法(1)のような原語テキストの多面的な分析は、従来の日本の主流となっている日本語のみによる論考では決定的な限界があった。言語テキストの引用を踏まえ、言葉の意味領域の曖昧な豊かさ、語源の響き、韻律、暗喩のイメージ喚起力などの分析は、原語を根拠にして裏づけを重ねてゆかずに明らかにならない。この点で、なにがしかの貢献ができたのではないかと思っている。未完の部分も完成させたいうえで、原語の引用とその分析を踏まえた単著の刊行を近いうちに果たすつもりである。

(2)

エリオットは、青春期まで国教会の宗教的伝統の中で自己形成をしてきた作家である。聖書講読と教会の儀式典礼で培ったキリスト教信仰の宗教的情緒と詩を心中深く宿しつつ、ダーウィン以後の進化論の自然観を自己のものとした。このように、相矛盾する世界観と真理探究の方法の葛藤は、小説言語に刻印を残している。この葛藤・相克がテキストにいかんにか反映しているかを言語事実から明らかにした。

(3)

エリオットは、事実上の伴侶たるジョージ・ヘンリー・ルイスと文芸批評の基盤を分かちあい、進化論の世界観と科学的真理探究の方法についての問題意識を共有していた。この問題意識が小説構造と語りの技法、性格描写、比喩・イメージなどに多大な影響を与えた。自然界の命の神秘を探究する科学者のまなざしが人間の生きざまの描写にも投影している。これが科学時代にふさわしい生理学・心理学的知見として作品に生きていることを裏づけた。

(4)

エリオットとルイスはドイツ語、フランス語、ラテン語、ヘブライ語などを原典で読みこなし、ヨーロッパ語の進化・発展を自家薬籠中のものにしてきた。このように多言語を学び、

ヨーロッパ各地への旅を共にすることにより、汎ヨーロッパ的教養を身につけていた。これによりエリオットは、小説言語としての英語の多層的な意味領域を押し広げる貢献を果たした。ヨーロッパ古典語の原典の意味を踏まえた英語の使い方は彼女の真骨頂である。こうした語源的な観点からもテキスト分析を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

①

(1)

福永 信哲、『ダニエル・デロンダ』グエンドレン物語：キリスト教の遺産と科学の和解、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読なし、第 153 号 (投稿中)、2013 年、pp.

(2)

福永 信哲、『ダニエル・デロンダ』22 章を読む：オースティンの遺産とエリオットの創造、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読なし、第 152 号、[bgeou_152_011_021.pdf](#)、2013 年、pp. 11-21.

(3)

福永 信哲、『ダニエル・デロンダ』に見る解体と再建の試み—ユダヤ人物語にみるジョージ・エリオットのヴィジョン—、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読なし、第 150 号、[bgeou_150_035_043.pdf](#)、2012 年、pp. 35-43.

(4)

福永 信哲、ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』に見る否定表現—ジェーン・オースティン『エマ』と比較して—、*PERSICA* (岡山英文学会誌)、査読あり、第 39 号、2012 年、pp. 27-42.

(5)

福永 信哲、ジョージ・エリオットにみる科学の受容と懐疑—『ミドルマーチ』医師リドゲートのテキストを読む—、その一、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読なし、第 147 号、[bgeou_148_109_118.pdf](#)、pp. 27-34. 2011 年、pp. 35-43. その二、岡山大学大学院教育学研究科研究集録、査読なし、第 148 号、2011 年、[bgeou_147_027_034.pdf](#)、pp. 109-118.

(6)

福永 信哲、ジョージ・エリオットの小説にみる教と科学の対話—『ミドルマーチ』人物描写テキストに見る—イギリス理想主義研究会、査読なし、第 6 号、2010 年、pp.

9-18.

[雑誌論文] (計 6 件)

[学会発表] (計 3 件)

②

(1)

福永 信哲、『ダニエル・デロンダ』22 章を読む：テキストは何を語るか、第 53 回広島英語学研究会サマーセミナー、広島大学霞キャンパス、2012 年 8 月 5 日、

(2)

福永 信哲、ジョージ・エリオットにみる科学の受容と懐疑—『ミドルマーチ』医師リドゲートのテキストを読む—、第 34 回岡山英文学会大会、岡山大学教育学研究科、2011 年 10 月 8 日

(3)

福永 信哲、ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』に見る否定表現—ジェーン・オースティン『エマ』と比較して—、近代英語協会第 28 回大会 (於福岡女子大学、2011 年 5 月 20 日

(4)

福永 信哲、『ミドルマーチ』にみる死生観—ドロシア・カソーボンの結婚の場合—日本キリスト教会第 4 回全国大会、梅光学院大学、2011 年 5 月 14 日

[図書] (計 1 件)

③

(1)

福永 信哲、『『ミドルマーチ』にみる死生観とジョージ・エリオットの精神遍歴—ドロシア・カソーボンの結婚の場合—』、pp. 153-62、鮎沢乗光、伊藤佳子他 42 名、大阪教育図書、『大榎茂行教授喜寿記念論文集：イギリス文学のランドマーク』、内田能嗣他編、2011 年、365 頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
該当なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福永 信哲 (FUKUNAGA SHINTETSU)
岡山大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：50116498

(2) 研究分担者

(該当なし)

(3) 連携研究者

(該当なし)